

瑞穂の歴史 その8

明治期の天然痘流行に見る 鴉崎村の対応について

令和二年（2020）一月、中国武漢に端を発した新型コロナウイルス（新型肺炎）は瞬く間に全世界に流行、世界各地で猛威を震い、多くの死亡者を出し、人々を恐怖に陥れた。治療薬のない中で、わが国では緊急事態宣言が発令され、感染拡大防止や予防策として呼びかけられたのが、手洗い、うがい、マスクの着用やいわゆる三密（密集・密接・密閉）を避けること。行動制限としての不要不急の外出自粛、接客を伴う営業の自粛のほか、県境をまたいだ移動の自粛である。さらに入国拒否など厳しい措置がとられ、中国や欧米などでは州・国境閉鎖も行われた。

人類の歴史を振り返ると世界的に流行したペスト、天然痘（疱瘡）、ス（ペイン）風邪が知られるが、こうした悪疫はわが国では古来から神罰・天罰として考えられてきた。日本が初めて疫病というものに触れた記録は飛鳥時代にさかのぼるとされるが、瑞穂地区では「辻切り」と言われる風習があった。つまり、集落に悪疫が入り込まないように村と村の道路の境界や辻に二本の竹を立て、これらをも縄で結び、悪魔よけのお札をつるし、悪疫退散を神仏に祈っていた。また、鴉崎地区と西和田地区の境界には木戸口という地名があり、これも悪疫・悪党が自村に入り込まないように木戸を設けたものと考えられている。

さて本稿で取り上げるのは、残されている資料から明治期における天然痘への鴉崎村の対応についてみてみたい。鴉崎村では明治十一年四月十一日、天然痘の最初の予防注射が行われた。その後、種痘は数回行われ、その都度種痘調査簿に記入し、この記録は、戸長役場に報告されていた。五軒の細みの中に「衛生員」が置かれた。

そして、千葉県からの通知で伝染病に関する衛生組合が設置されたのは明治三十三年であった。次に、「瑞穂村鴉崎衛生組合規約」を要約して記載したい。

第一条～四条略

一、組合員は平素は勿論伝染病流行の際は、一層衛生に注意し各自の健康を保持すること。

二、不実の果実並びに腐敗した飲食物は販売し又は飲食しないこと。

三、衣服は時々洗濯し身体は常に清潔にすること。

四、家屋の内外及び厨房便所芥溜居宅近傍の道路下水溝等普段掃除をなし清潔にすること。

五、飲料水近傍は殊に清潔にし汚水を浸透させないこと。

第六～七条略

第八条 伝染病に疑わしい疾病に罹ったときは、速やかに医師の治療を受け、決して隠蔽しないこと。

第九条 組合員は各自健康に留意し、若し伝染に疑わしい疾病に罹ったことを認めるとき、其の他売薬を購入し加持・祈祷を行い、排泄物を投棄し埋没したことを見聞きしたときは直ちに細長や役場吏員に密告すること。

第十条では、伝染病が発生した場合の順守事項として

一、患者の汚物塵芥等は流水浴地等で洗ったり投棄埋没しないこと。

二、患者に居合わせたものは何人も吏員の指示を受けなければ外出しないこと。

三、患者の物品は、吏員の指示を受けなければ持ち出ししないこと。

四、患者の水は他家で使用しないこと。

五、生水を飲用しないこと。

六、多数寄合飲食しないこと。

七、飲食物及び食器等は塵芥付着蚊蠅等から防備して洗い、煮沸水を使用すること。

八、消毒的清潔法を行うときは形式に流れず完全に執行すること。

第十一条 疾病に罹り医療を受ける資力のないものは、相当の医療を受けさせるため、組合費用を以て救済すること。

第十二条 貧困等にして清潔方法消毒方法を行えないものは組合費用を以て執行又は補助して執行すること。

第十三条 交通遮断の家には隣保に於いて外部の用務を要弁すること。

第十四条 春秋種痘期には漏れなく接種すること。

第十五条～二十四条略

第二十五条 組合費は区の現住者寄り徴収する（徴収方法は家の財産の等級によるが、部落の共用財産があるときはそこから支出する）

以下第二十六条～三十条略

規約要約して示したが、これらのほか違反者には金一円五十銭もしくは三日以内の雑役に服されるという罰則を設け、また、組合に衛生組長、副組長を置くなどして衛生講話、消毒方法、器具の買入れなどを行うよう定めている。

欧米の文化が取り入れられる中で、わが国では明治十年代、明治二十年代のわずかに二十年の間に八十万人をこえる伝染病の死者をだしたのである。

こうした恐ろしい伝染病への細かくて厳しい対応は現代の新型肺炎対策にも通じるものがあるように思う。結局、天然痘は世界的には予防法として種痘（ワクチン）接種により昭和五十五年五月にWHO（世界保健機関）が世界根絶宣言をしている。

今日の新型肺炎の目に見えないウイルスの怖さは、医療従事者を感染に巻き込み、諸外国ではベトナム数が不足するなど医療崩壊の危機に追い詰めたほか、経済活動は大幅に制限され、これからの人類の歩み方に、大きな警鐘を与えるものとなった。現在も世界的に流行が続いており、以前の生活や経済活動に戻るには、さらに多くの時間を要する中で、天然痘に見ることができるように新たな治療薬や、ワクチンが見えない長丁場の戦いになりつつある。